



カフェや雑貨店など個性
的な店舗が出店している
[BRICK MALL SASEBO]

市中心部に位置し、佐世保港の玄関口である「万津町」。その歴史は古く、大正9年の市営魚市場開設以降、市営棧橋完成などを経て、同15年には万津町、塩浜町などの沖合一帯が国の商港指定を受け、多くの人や物資が集まる物流の拠点となりました。

昭和13年には青果市場が完成し、同46年には市民の台所「朝市」が現在の場所に移転するなど「商いのまち」としてにぎわいました。町内にある「恵比須神社」には商売繁盛の神様がまつられており、現在も地元の人をはじめ多くの商売人が参拝に訪れています。

近年では、雑貨や飲食店など個性的な店舗が増え、昨年1月には新たな商業施設「BRICK MALL SASEBO」がオープンしました。現在は三ヶ町、四ヶ町、五番街に続く新たなまち「万津6区」として注目されるようになり、若者に人気の観光スポットになっています。

時代の変化とともに新たな商いの風が吹き始めた万津町。今回の特集では、昔と今が共存する新しいかたちのまちづくりについて、関係者の皆さんに話を伺いました。

(写真大) [BRICK MALL SASEBO]で開催された「餅つきイベント」。
(写真小) 毎月第2・4土曜に朝市会場で行われている「せり市」。買い物客用の楽しいせりで、会場はいつも笑いに包まれています



特集 ● 懐かしさと新しさが交差する6つ目のまち

万津6区

YOROZU
TOWN
S I X



佐世保朝市

昔と今が共存するまちに

朝市運営委員長 辻山 弘昇さん

取れたての鮮魚や野菜、干物、生花など多くの店が立ち並び、早朝からお客さんの元気な会話が聞こえる「朝市」。辻山さんは農業をしながら45年以上朝市で加工食品の卸売業を営み、現在は朝市運営委員長を務めています。



人と人をつなぐ場所

今ではスーパーやコンビニ、インターネットなどで手軽に買い物ができるようになりましたが、昔は皆さんよく腕に籠をぶら下げて買い物にきていました。高齢化が進み、以前に比べるとお店やお客さんの数は随分少なくなりましたが、売り上げよりもお客さんとの会話が楽しみで店を出している店主もいるなど、人情味があふれているところは昔からずっと変わりません。

お客さんの中には商売人も多く、お互いに情報交換したり、市場での出会いが新たなビジネスチャンスになったりして、お客さん同士のネットワークが広がり、「人と人をつなぐ場所」になっています。きっとこうしつながらがあるからこそ今も続いているんでしょうね。

変わるものと変わらないものの共存

万津町は今大きく変わりつつあります。朝市では「せり市」を始めたり、地元企業と協力して「朝市フードセンター」をオープンしたりして客層や食材の幅が広がりました。最近では若い人が加わり今までなかったお店がたくさん増えて、人通りも多くなりましたね。

一方で生活が豊かになり、これまでは「安心」ばかりが求められてきましたが、食品偽装などが社会問題となり「食の安全」にも目を向けられるようになりました。朝市では昔から「おいしくて新鮮なもの」を提供していますし、それはこれからも変わりません。今からの時代はこうした「変わるもの」と「変わらないもの」がうまく共存していかなければいけないと考えています。

今、若い人たちが地域のことを考え、イベントなど次々と新しいことに挑戦しています。私たちも朝市にしかできないこと、朝市だからできることを考え、若い人たちや地元の人たちと協力しながら、まちを元気に盛り上げていきたいと思っています。

(取材日 10月17日)

【佐世保朝市】万津町73 3時～9時(日曜定休)

☎ 25・68993

【朝市フードセンター】4時30分～18時(日曜定休)

☎ 22・20302

豊かな個性がつながるまちに 店長 西宏一さん

本市出身で高校卒業を機に東京や海外などで飲食業に携わった西さん。平成18年に帰郷し、万津町で飲食店「カフェドット5」をオープンしました。万津町が注目されるきっかけとなった店舗といわれており、連日多くのお客さんでにぎわっています。

よそにはないものを作る

今でこそ多くの店が立ち並んでいます。子ども頃の万津町は何もないイメージでした。10年ぶりに帰郷した当時も、まだ「させば五番街」などがなく、人けのない倉庫街で、上京したときよりもさら

に元気がなくなつたように感じましたが、東京や海外で働いた経験を経て再び万津町を見てみると、この場所に強い魅力を感じるようになり、店を出すならここしかないと思い、店を構えることを決めました。

オープン当初は周囲から心配され、私自身とても不安でしたが、「ゼロから始めるからこそやりがいある」と気持ちを奮い立たせ、それからは、とにかく人通りが少ない場所にどうやって人を呼ぶかを考えていましたね。フリーマーケットや音楽イベントなどいろんなことに挑戦しているうちに少しずつ客足も増え、町内の皆さんも足を運んでくれるようになりました。特に最初のお客さんのことは今でもはっきりと覚えていて、その方は今でも時折お店に来てくれます。本当にうれしかったですね。



またお客さんをお呼びするためによそにはないものを作らなければと思い、店内はお客さんにとって居心地の良い場所となるよう細部までこだわり、

料理は幅広い客層に広えられるようなメニューを用意するなど、自分がこれまで見てきたもの、経験してきたことを全てつぎ込んでお店を作りました。

佐世保のまちは面白い

ここ数年でまちの雰囲気明るくなりましたね。地元だけでなく日本各地から多くの観光客が訪ねてきますが、先日あるお客さんが興奮気味に「佐世保のまちは面白い」と話していて、外国人が多く多国籍な雰囲気やいろんな種類の飲食店、佐世保の街並みなどを見てとても楽しまれている様子でした。

またお店のため福岡からイベントに参加した方からも、予想を上回る盛り上がり、「佐世保のまちは甘くみている。佐世保のまちはすげえ」と言われたときはうれしかったですね。お店を始めた頃は何度も辞めようかと思いましたが、こういう話を聞くと続けていて良

かったと実感します。これまでいろいろやってきて精神的にも強くなりましたし、いろんな考えを持てるようになりました。やってきたことに後悔はありませんし、何事もやってみないことには分かりません。新しいことに挑戦することが大事ですね。

個性がつながるまちに

今、万津町では若者が中心となって新たな試みに挑戦しています。これまでは朝市や町内会、子ども会などがそれぞれ分かれて活動していました。地域全体を巻き込み「万津6区」という一つのまちとして動き始めました。

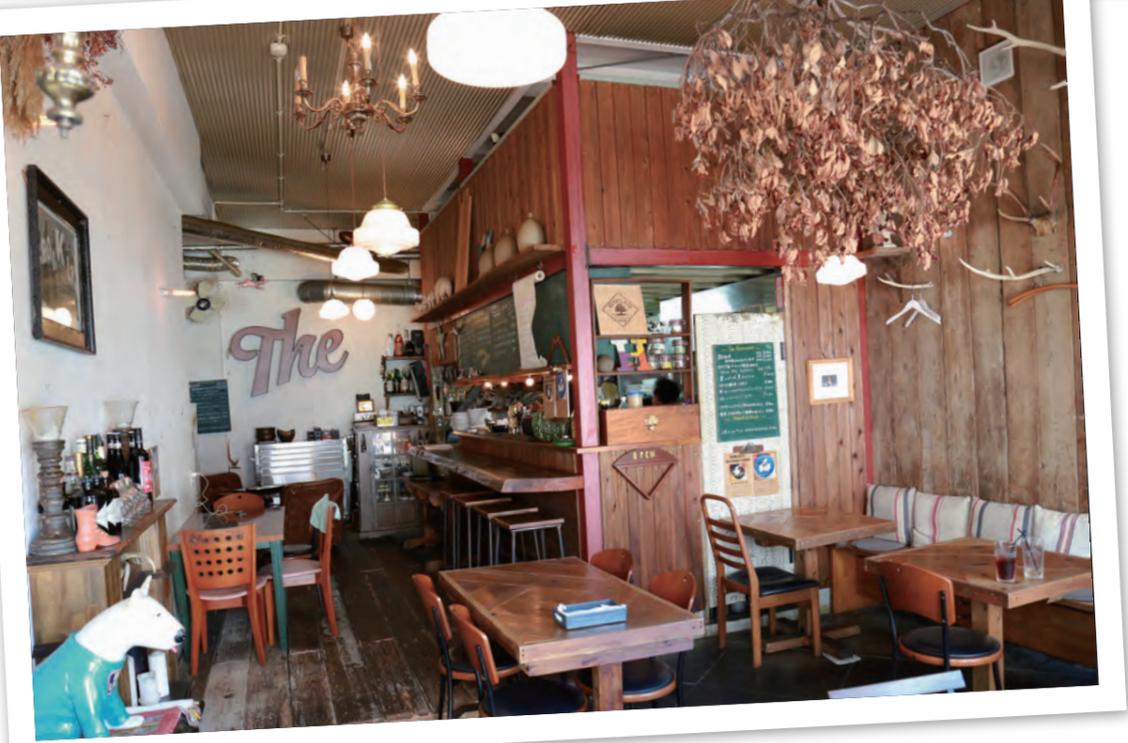
例えば「地元でできることは何か」を考え、地域を紹介するホームページや冊子などを作りました。また、1月には「つくるとあるく」をテーマに「YORONZU MARKET」を初開催し、自治会の協力の下、まちに古くから伝わる「餅つき」をしたり、町内にあるお

店と協力してまちを回遊するための仕組みづくりを考えたりしました。このようにまちに昔からある伝統や習慣などを生かしながら、新しいものを作り上げていくことが大切だと思っています。

最終的には全て地元で面白いことができるようになれば一番ですね。そのためにはこれからの時代、一つ一つのお店が強くなればいけません。どこにでもある普通のものでなく、一目置かれるような特別なものができれば、人も自然と集まるようになります。

今の万津町には昔から暮らしている人もいれば若い人もいます。外国人も住んでいます。人もお店もそれぞれ違いますし、それが個性だと思います。まちの個性はそこで暮らす人たちのつながりによって自然に生まれるものだと思うので、地域にある個性がうまくつながっていけば、これからもっと面白いまちになっていくのではないのでしょうか。

取材日 10月13日



居心地の良さにこだわった店内



店舗の外観(左)と看板(右上)、人気メニューの「スペシャル・ロコモコ」(右下)

【カフェドット5】万津町7の6フクヤビル1階 (火・土曜) 11時30分～15時、18時～23時(日曜、祝日) 12時～22時 ※月曜定休。 ☎22・8505

地域のみみなで

支え合うまちに 自治会長 安達 由紀さん

約290人が暮らす万津町では子ども会や敬老会など自治会活動も活発に行われています。安達さんは結婚を機にこのまちに移り住み、若くしてまちの代表を務めています。



新しいものを受け入れるまち

会長の仕事を引き受けたのは、今から5年前。当時は自治会が休止状態で、遊び場も少なく子どもたちがもつと自由に交流できる機会を作りたいと思ったことがきっかけでした。

数年前までは人通りも少なく静かなまちでしたが、近くに「させぼ五番街」がオープンして以来、若いご夫婦や子どもたち、外国人などいろんな人が住むようになり、



万津町自治会の皆さん

まち全体がにぎやかになりました。このまちの一番の魅力は「新しいものを受け入れること」で、もともと商いをしている人が多いこともあり町内の皆さんは仲が良いですし、若い人たちが新しくお店を開くと自分たちの若い頃を思い出してみんなで応援しています。

住みやすいまちを目指して

このまちでは、住民をはじめ町内で商いをする皆さんにも自治会に加入してい

ただき、みんなで協力し合いながらまちの運営を行っています。自治会では毎月会議を行い、子どもたちやお年寄りなど地域の様子をみんなで共有したり、子ども会では子育てや学校のことなどお母さんたちの情報交換の場になったりしています。小さなまちだからこそ地域内の交流は大切です、協力し合っていくことが住人の皆さんの住みやすさにつながると思っています。

最近では若い人たちが万津町をもっと面白くしたいと企画した「YOROZU MARKET」に私たちも一緒に参加しました。当日はたくさんのお客さんでにぎわい、餅つきなど子どもたちは大盛り上がりでした。

また敬老会ではこれまでホテルを貸し切って食事会などを行っていましたが、「せつかく地元におしゃれなお店ができたんだから次は町内でやりましょう」と提案があり、住民の皆さんもまちの変化を楽しんでいます。ときには町内の一員として、ときにはお客さんとして、これからもお互い良い関係を築きながら活動していきたいですね。

住民の皆さんにもにぎわいが戻ることを期待していますし、人通りが増えればまちの防犯にもつながります。これからも地域全体で交流を深め、万津町で暮らす皆さんが気持ち良く過ごせるまちにしていきたいですね。

子どもたちとイベントを楽しむ安達さん



魅力ある個店(グループ)づくりを支援しています!

本市では魅力ある商店街を創出するため、集客の核となる魅力ある個店(グループ)づくりに対して支援を行っています。個店の機能強化や売り上げ向上につながる効果的な取り組みに対して、その経費の一部を補助しています。

魅力ある個店グループ創出支援事業
対象事業 ホームページ開設・冊子作成等の情報発信、マルシェ等の共同販売促進イベントの開催、新商品等の開発、空き店舗等を活用した新規事業経営・リノベーション事業など

対象者 市内に店舗等がある小規模企業者で、既存の商店街組織等の推薦を受けて2者以上で構成するグループ ※申請業種に条件があります。
補助率 補助対象経費の2分の1以内(上限30万円、リノベーション事業は100万円)

申し込み 商工物産課へお問い合わせください



万津町では補助金を活用し、「万津6区」のロゴマークやホームページ、動画、冊子を制作しました
HP: <http://www.yorozutown6.com/>



商工物産課 ☎ 24-1111



大鍋で作られる朝市ぜんざい会の温かいぜんざい

朝市ぜんざい会
毎年大にぎわいの催しで、手作りの「ぜんざい」が振る舞われるほか、野菜や海産物の特売も同時開催されます。みんなで楽しく参加しましょう!
日程 1月10日(木)午前6時~
場所 佐世保朝市
※ぜんざいは無くなり次第終了します。
☎佐世保朝市事務所 ☎ 25-6893

YOROZU MARKET Vol.2
日程 1月20日(日)午前10時~
場所 BRICK MALL SASEBO など
内容 万津汁の振る舞い、餅つき、二十日恵比須、マルシェなど
※詳しくは万津6区ホームページをご覧ください。
☎ YOROZU MARKET 実行委員会 ☎ 050-5326-5216



前回初めて開催されたYOROZU MARKETの様子

特集に関する問い合わせ 商工物産課 ☎ 24-1111